

A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
向かうべき保育の方向	法人理念	子ども一人ひとりに寄り添い大切に育てる	子どものバックグラウンドや発達を知り、想いを受け止めながら一歩先の手立てを考える寄り添い方ができている。		✓			保育園の方針が変わり5年が経過したが、ほとんどの保護者から、理解、共感されていると感じる。今年度初めて4月に幼児組のみ懇談会を開いたが、園の方針を伝える機会があることは保護者との信頼関係を作っていく上で大切な場だと感じる。来年度も懇談会を開き、保育参加会、親子遊びの会でも、対話を増やしていきたい。保護者との信頼関係を築いていきたい。
	園の基本方針	子ども一人の発達過程や、その子を取り巻く環境の理解に努めその子の成長の少し先を見据えた「今」を大切に温かく丁寧な保育を行う。安心して子どもを預ける環境を作り親が自らの子育てを語り相談したくなるような信頼関係を築く支援を行う。未来を生き抜くために逞しい心と身体を作り想像性豊かに考える事が出来るよう保育する	法人の理念、園の方針、園目標、目指す子ども像から「保育」の道筋として「全体的な計画」に沿った保育を展開している。6年間の育ちのポイントを加え園の特色を活かしながら最終的に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を目指している。連絡ノート、コドモンのドキュメンテーション、玄関掲示で子どもの姿を伝え保護者と育ちを共有している。		✓			やりたいことを見つけ、やりたいことに夢中なり、友達との関わりを楽しむ遊びが充実して経験できるように、各歳児の発達を捉えていきたい。子ども達が、ワクワクドキドキ楽しく遊んでいる姿から、環境を作れるように、職員同士が「もっとこうしたらいいかも」「こんな物があってもいいかも」とお互いが高め合える存在になっていけるような研修、勉強会に取り組めるようにしていきたい。
	園の目指す子ども像	自分も友だちも大切に する子 心も身体もたくま しい子 自ら遊びを 横び・考え・決 めて行動できる子	ひとり一人の子ども達が主人公になれる瞬間を保育士が見逃さず子どもの成長過程を保護者と共有できる取り組みを行う。 子どもの姿、興味を理解し、受け止め、一人ひとりの育ちを大切にします。		✓			
	園の求める保育の視点	身近な自然の中でのびのびあそび・・自分を信じて やりたいことを見つ け→やりたいこと に夢中になり→友 達との関わりを 楽しむ子	ひとり一人の興味を見逃さず、理解し、やりたいことを見つけているな、やりたいことに夢中になっているかな、友達との関わりを楽しみあそびが充実しているかな、を考え遊べる環境を作っている。			✓		
保育について	子どもの人権	子どもの人権を意識した保育がされている	チェックリストを使い、職員一人ひとりが振り返りを行い、園長と個別に面談している。MT時に話し合い、子どもの人権について考える時間を作っている。		✓			来年度も「子どもの人権」の研修を行い、職員一人ひとりが自分の保育を振り返る時間を作る。
	0歳から積み重なっていく発達を学年をまたいで考えられる	0歳から就学前までの発達が理解できており、個や異年齢の関わりを大切に した保育や保育の連続性を考慮した保育が行われている	0歳児から5歳児まで、各クラスどんな活動が行われ、子どもの姿はどうだったか？子どもの興味から活動の広がりはどうだったか？など各クラスのMTで振り返る事ができた。0歳児からの積み重ねが5歳児の最終の姿につながっているの、全体的な計画をリンクさせながら保育を展開している。		✓			子ども達の興味を持った遊びが「○○ごっこ」や「○○やさん」へと広がリクラスから異年齢交流へとつながった遊びは、子ども達の自信につながり、得意な物を見つめる良い機会となった。これからも子どものつづき、気持ち、関心から子どもの興味を見逃さず、遊びへと発展していく事が大事だと考える。
	つながる保育	日々保育の振り返りが行われ、今後の保育へつながるよう計画されている	年長児の遊んでいる姿を見て憧れの気持ちをもち、真似して遊んでいる姿も見られた。年長児が下のクラスにお手伝いに行く「お助けたい」は日常の習慣となり、わらべ歌遊び、ふれあい遊びも園全体で自然形で取り組んだ。子ども達が「やりたいあそび」ができるように保育士が子どものつづきをひろい、子どもの姿をみて環境を用意することで遊びが広がり、様々な経験ができる取り組みを行う。		✓			日々のおそびから、運動会、モコの会につながるので、得意な物、苦手なものにも挑戦する気持ちを大事に、見逃さず、援助していく事を大切に保育していきたいと考える。一人ひとりが輝ける場所、主人公になる瞬間を大事にしていきたいと考える。また「やりたいあそび」が常にできるような室内環境の大切さを考え、発達や育ちに合った環境にできるように取り組んでいく。
	生活リズムの確立およびリズムの多様性への配慮	安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるように子どもの目線になり落ち着ける時間や空間(環境)が保障されている 育ちや発達に考慮した関わりを行っている	様々な経験をすることで、子どもの意欲や関心に気付く事ができる取り組みを考えている。		✓			
	環境を大切に考える保育	自らあそび、チャレンジし、発想を広げられるような環境が整えられている				✓		
安全管理	マニュアル理解	安全計画や災害・事故防止マニュアルは実効性があるものが策定されており、職員が内容を理解し定着対応できるような取り組みができている	リーダーを中心に責任を持って、毎月訓練を行う。 各クラス職員が指示がなくても主体的に判断し、動ける事を旨とする。 園内、園外の安全対策を考えプチ研修を行う。職員全員で救命救急講習を受ける。		✓			「いつどんな災害がおきるか」わからないが、職員主体で動ける訓練にすることで、自分達が子どもを守る使命感で判断できるようにしていきたい。指示がなくても考え、行動できる職員でなければならない意識を強く持てるようにしたい。
	事故防止	日々のヒヤリハットを集め共有し、園の子どもの特性を知っている 気を付けることや改善することを共有実践し大きな事故につかばない	日々のヒヤリハットは園全体で共有、周知する取り組みを行うが課題もある。緊急性のある内容は朝MTで共有する。保護者に伝える内容はコドモンで知らせたりおたよりを配信する。		✓			職員一人ひとりがヒヤリハットだと意識するよう気を付けるポイントを職員同士伝えあう習慣をつけていく。
	防災	様々な災害を想定した訓練を行い、全職員が状況に応じた的確な行動がとれる 保護者にも災害に対しての知識を伝えている	災害訓練は様々な状況を想定し、「子どもの命を守る」ために地震、火災、不審者を想定した内容で消防署、警察にも参加してもらう訓練を考える。毎月の訓練後の反省課題から課題を活かした訓練を考える。職員一人ひとりの反省課題から意識して主体的に動く事を心がけた訓練に取り組む。		✓			毎月決められている訓練だけではなく、突発的な訓練を行い、自分の状況判断、行動することが大事なのかを職員一人ひとりが意識できる訓練を考える。訓練中の動画撮影を見ながらそれぞれが反省課題を考え次の訓練で改善されるよう意識して参加していきたい。それぞれの役割分担を明確にし、指示がなくても自分達で行動できる事を期待していきたい。
	環境	クラス・廊下・共有場所・避難経路の整理整頓ができ ており安全が確保できている 遊具・玩具等点検を行い修繕されている				✓		
保	マニュアル理解	感染症マニュアルは実効性のあるものが策定されており、職員が内容を理解し、感染症や疾病についての知識を持ち対応できている	リーダーが中心となり、勉強会を開き知識の向上に努めている。感染症が発症した時は保護者に伝え共有している。		✓			全職員が感染症に対しての知識を深め、保護者からの問い合わせにも対応できるようにする。病気に対する意識を高め、保育士の質の向上を目指す。
		健康に過ごすために年齢にあった習慣が身につけている	保育園の特色の泥の活動、山の活動は自然形で体感や足腰を鍛えている環境		✓			保育園の特色の活動は各クラスで大事にしていき、乳児、幼児で内容も変わってくるので保育士が活動内容を見極め、援助していく事を大事にしてい。何でも挑戦

健・食育	健康	自ら体を動かすことで心と体の健康を保つ取り組みを行っている	になっている。その他にも園内、園外でいつでも何でも挑戦する事ができるよう子ども達の気持ちを大切にし、援助している。		✓			する気持ちを受け止め、得意な事をもって得意になり自信が持てるようにする。苦手な事にも挑戦する気持ちを大事にし、子ども達の「今挑戦する時」を見定めて援助していく。ひとり一人の姿、興味を持っている様子を大事にする。
	食育	食に興味を持てるよう給食職員と連携しながら取り組みをしている	各クラス野菜の栽培をしながら興味を持つことができる取り組みを行っている。給食室主催の「おかってば」はお手伝いをやりたい子ども達が集まり、自らの意思でお手伝いしているので大人気の活動になっている。		✓			食育活動では、1年間の計画を立てて給食室と、保育室と相談しながら「食への興味」が楽しく持てるような食育活動にする。大人気の「おかってば」は月齢にあった内容で取り組めるように、引き続き続けていながら調理のお手伝いの楽しさをさらに伝えられるようにする。
		発達に応じた食事のマナーを伝えている	各歳児にあったマナーは保育士、栄養士が確認しながら伝えている。			✓		各歳児の発達にあったマナー等は保育士、栄養士で個々の様子を見ながら伝えられるようにする。

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
組織運営	組織体制	コミュニケーションやチームワークを大切にしたい	職員同士、何でも話し合える関係性を大切にしている。年齢も様々だがお互いに補え合える関係性を目指している。			✓		クラスの垣根を越えて、風通しの良い職員同士の関係性を目指す。
		園長を中心に役割分担と責任が明確にされ迅速な対応ができる体制があり、担当の役割を全うできている	リーダー業務、係の仕事は自分の役割を自分で考えるようにした為、主体的に業務を全うするようになってきた。しかし、時間の確保の難しさもあるため課題である部分もある。			✓		リーダーMTを取り入れてリーダー全員が気持ちをひとつにしていける。時間の組み立てが課題なので、計画的にMTの確保をリーダーが中心となって決めていく。
		打ち合わせや会議・MT等が適時行われ、情報共有がしっかりとできている	通常の会議は計画的に行われているが、行事等の会議は時間の確保が難しいため情報共有不足が課題である。リーダーがリーダーの仕事をする組織作りの重要性を考えていきたい。			✓		職員同士、意見を伝えあえる関係性を大事にする。
研修	研修の充実と質の向上	園内研修担当者が中心となり園の課題や園が目指す保育の充実について学びの場や語り合いの場が	研修担当が1年間の研修を組み立てた。特色を活かすための研修を主に行う。また、ドキュメンテーションの良さを学び保育士の質の向上にも努めた。		✓			研修内容を考える時に、職員が主体的に参加して、より語り合える内容にする。自分達で考え実行できる研修になっていきたい。「3つの遊び、3本の柱、環境、玩具」も入れて組み立てていく。
		園外研修へ参加し自身の保育の質の向上に努め園内の保育に活かされている	キャリアアップやその他の外部研修に参加し保育の向上に努めた。			✓		園外研修報告後、園内で取り入れていける物を検討し園全体で活性化できるようにしていく。
家庭保護者と連携	保護者支援	保護者が子どもの想い・成長・発達を受け入れ子育てできるよう配慮している また保護者が子どもの最善を考え行動できるよう支援している	登園時や降園時の挨拶は大切にしている。子ども達の様子を伝えながら、保護者の方達とコミュニケーションを取ることを大事にしている。懇談会や親子遊びや保育参加会等で保護者の方達とコミュニケーションを取りながら信頼関係を築いている。園からは専門家の視点を持ち、伝えなければいけない事は伝えられるように、まずは信頼関係を築く事を大事にしている。		✓			保護者と子どもの様子を見極め、寄り添う部分と専門家の視点からの伝えるべき事を整理して伝えていく。懇談会や親子遊び保育参加会の会等で保護者が集まる場所で伝えるべき事は伝えていく。日々の子ども達の様子を伝えながら、園と保護者が一緒に子ども達の育ちや成長を共感できる関係性をめざす。
	家庭との連携	保護者との信頼関係が築けており、保育園での子どもの様子を伝え喜びやつまずきを共有し共に育てている 園と保護者で子どもの様子や成長を共に楽しみ喜び合っていけるような取り組みをしている	月刊絵本の取り組み、貸し出し絵本の取り組みを行う事で、絵本を通じて保護者と子どもの様子、成長について共有できることが増えたように感じる。 毎月の玄関掲示（絵本）でクラスの様子も伝えている。 日々の様子や活動の様子は、連絡帳やコドモンのドキュメンテーションで配信している。		✓			絵本離れの保護者が多くいたため、絵本の活動を取り入れたが、まだ絵本に興味がない保護者もいるため、引き続き絵本の活動を取り入れていながら、絵本の良さを伝えていきたい。 保護者と子どもの育ちを共有できるようにコドモン掲示で伝えていく。
近隣の連携と学校の校	（保育園）就学に向けた学校とのつながり （小規模）年少進級に向けた連携園とのつながり	（保育園）公開保育開催や公開授業へ参加、地域の情報交換の場へ参加し小学校との連携を図り就学がスムーズに行われるよう努めている （小規模）連携園との交流を行いスムーズに進級できるよう努めている	小学校1年生の授業見学をさせてもらい、また生活科の授業と一緒に交流する機会があり、就学に対する期待や希望を持つことができた。 しかし、公開保育を見学してくれた小学校がなかったため、子どもの様子を伝えるのが用紙や口頭だけになってしまった。 毎年「未広学園」に参加して近隣の小学校との情報交換を行っているが、少しずつだが小学校との交流につながっていると感じる。		✓			1年生の授業を見学させてもらう事ができるようになったので、引き続き定着させていながら、子ども同士の交流、保育園と小学校の交流ができる場を持てるようにしていきたい。 未広学園は年に1回なので、積極的に小学校との情報交換、交流について話をしていくようにする。
近隣の連携と	地域に親しまれる園作り	豊かな経験がはぐくまれるように、地域の様々な人と場に関わる機会を大切にしている	老人会やデイサービスへの訪問で、お年寄りを身近に感じふれあい遊び等で交流出来た事が、優しい気持ちを育んでいる環境にもなっている。 近隣の中学校とは職場体験や授業で、積極的な交流ができていたので嬉しく感じる。 また、保育士の仕事を経験してもらえ体験は双方にとって良い関係性になっていると感じる。		✓			引き続き、地域の老人会やグループホームとの交流、中学生との交流は今後も続けていき、地域に親しまれる園作りを目指していきたい。